令和５年度

事務事業評価（二次評価）

アンケート結果

（評価者編）

（説明者編）

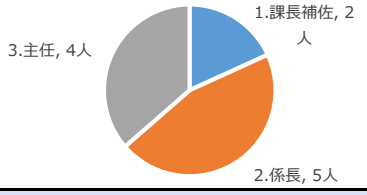
■令和5年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（評価者編）■

回答数：11

1.職名について

■設問1　あなたの職名を教えてください。

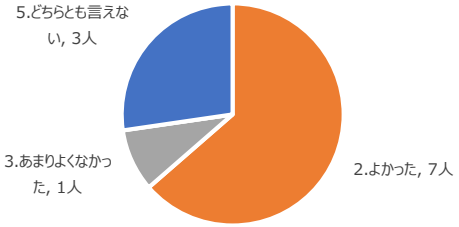
1.課長補佐	2人
2.係長	5人
3.主任	4人



2.二次評価への参加について

■設問2-1　二次評価に参加してよかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	7人
3.あまりよくなかった	1人
4.よくなかった	0人
5.どちらとも言えない	3人



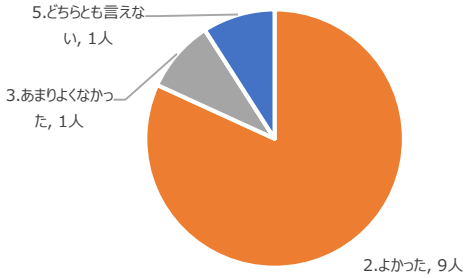
※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった
- 普段の業務では触れることのない分野の事業やそれぞれの課題について知ることができた。
- 担当課以外の事業について理解を広めることができた。
- 自分が評価者になった場合、このような感じで質問されるというのがわかった。
- 他課の事業を知る機会となった。
- 他の課の取組みについて知ることができたから。
- 他事業を俯瞰的に理解することで自らの業務の手法の参考となるため

○どちらとも言えない
- 二次評価に参加する事は単純に他課事業を知るだけでなく、冷静に担当事業についても再度見ることができるので良かったと思います。しかし、二次評価に参加し意見であったり方針区分を決めることは、評価対象の事業について事前に調べる時間的余裕もないですし、私の経験値では負担が大きかったです。
- 他課の事業を学ぶ機会ではあったが、知らない事が多かった為、評価者として適格だとは思えなかった。

■設問2-2　職員（課長補佐・係長・主任）と行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーとの混成チームで二次評価してよかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	9人
3.あまりよくなかった	1人
4.よくなかった	0人
5.どちらとも言えない	1人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった
- 職員と住民という立場の違いで考え方が異なることが実感できた。
- 違った目線で意見がでるのでメリットはある。
- 行政改革推進委員からは、職員には無い視点での意見を聞くことができ、自課の事業に置換えて考えられた。
- 複数の立場からの意見を共有出来たことで、より事業に対する客観視点を持つことが出来たため
- 行革委員さんの意見（見方）の切り口が衝撃的でしたが、事業に対する必要な考え方であり勉強になりました。
- 行政改革推進委員の方の視点や考えを学ぶ機会となった為。

○あまりよくなかった

・行政改革推進委員・行財政経営マネジメントアドバイザーが攻撃的過ぎて説明員が委縮してしまうのではないかと思う。ただ職員のみであれば緩みも出るのではないかと思う。

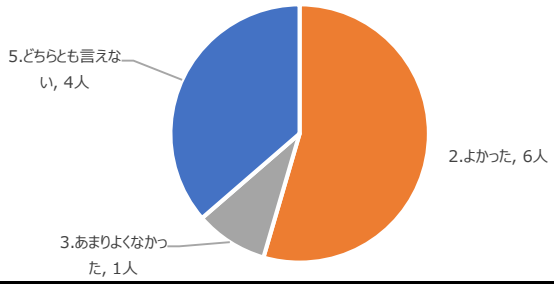
○どちらとも言えない

・現体制では、住民視点より行政寄りの評価の傾向が多くなるように思いますが、混成チームによる評価が第三者から異論がなければ良いのではないでしょうか。

3.二次評価の内容について

■設問3-1　評価シートの構成は分かりやすかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	6人
3.あまりよくなかった	1人
4.よくなかった	0人
5.どちらとも言えない	4人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○よかった

・特に不自由は感じなかったので。

・わかりやすいのでこのままでもよいと思うのですが、各職員がこの評価シートの作成に苦労しているようですので、各項目のリスト選択、指標のグラフ化、マクロ化など、業務量が軽減・改善できるようご検討ください。

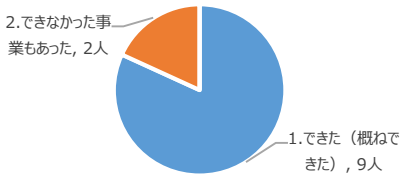
・『５.事業目的達成のための手段と成果』欄が、事業内容がよくわかりよかった。

○あまりよくなかった

・指定管理者が運営している事業については、指定管理者の収支状況の資料も必要ではないかと感じた。

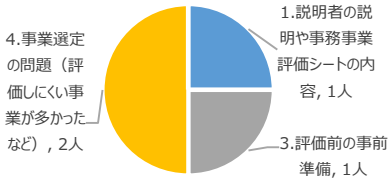
■設問3-2　全体を通して説明者と十分な意見交換ができましたか？

1.できた（概ねできた）	9人
2.できなかった事業もあった	2人
3.全体的にできなかった	0人



■設問3-3　設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

1.説明者の説明や事務事業評価シートの内容	1人
2.ファシリテーターの進行	0人
3.評価前の事前準備	1人
4.事業選定の問題（評価しにくい事業が多かったなど）	2人
5.その他	0人



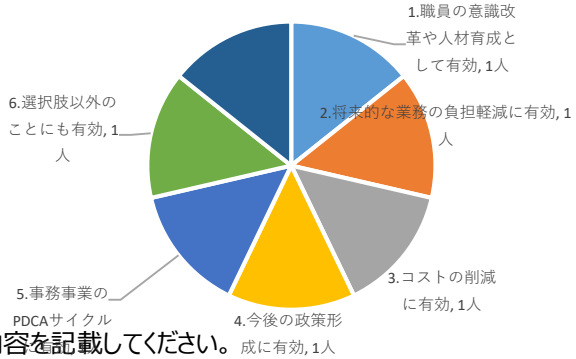
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

無し

4.二次評価の有効性について

■設問4-1　二次評価は有効だと思いましたか？（複数回答可）

1.職員の意識改革や人材育成として有効	1人
2.将来的な業務の負担軽減に有効	1人
3.コストの削減に有効	1人
4.今後の政策形成に有効	1人
5.事務事業のPDCAサイクルに有効	1人
6.選択肢以外のことにも有効	1人
7.有効なことではない	1人



※上記で「6.選択肢以外のことにも有効」を選択した場合、その内容を記載してください。

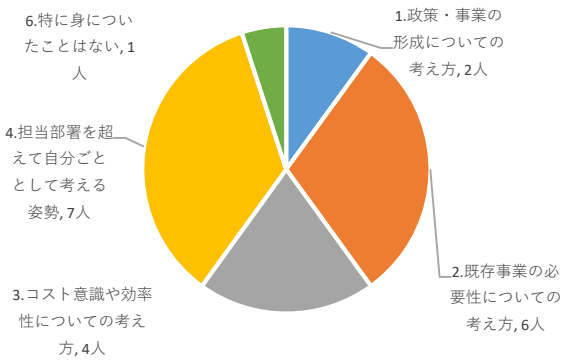
無し

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

・多角的な視点で各事業を評価できることは有意義だと感じた
・実際に反映されているか不明なので
・様々な視点から事業内容について考える機会となる為、事業を振り返り、次年度以降に活かす事ができる。

■設問4-2　二次評価に参加して、身についたことはありますか？（複数回答可）

1.政策・事業の形成についての考え方（目的や成果指標の考え方が身についた等）	2人
2.既存事業の必要性についての考え方（優先度や判断の基準が身についた等）	6人
3.コスト意識や効率性についての考え方	4人
4.担当部署を超えて自分ごととして考える姿勢（町政全体を考える広い視点が身についた等）	7人
5.選択肢以外のこと	0人
6.特に身についたことはない	1人



※上記で「5.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

無し

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

・他部署の事業内容だけでなく、その事業の必要性や効率性についてや担当者の考えなど、幅広く知る機会となった。

5.次年度以降の改善点・ご意見

■設問5-1　二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

・全事業の評価結果を職員に周知することで、担当課の危機意識につながるのでは。
・二次評価の結果が、以降の町政に活かされること。目的の一つである、事業の取捨選択をし、経費削減に至るようにすること。

■設問5-2　二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

・継続されたい
・今年度は企画財政の担当者さんが進行・記録してくださいましたが、R4年度はどちらも2次評価者が行ったと聞きました。もしも、R４年のやり方が継続されていたならば進行・記録等に気をとられ、ただでさえ事業に理解不足で方針を決めることが難しい中、事業評価に集中できなかったと思います。そのため、今後も企画財政の担当者さんが進行等をしてくださるのが良いと思います。
・事業仕分け的なチームもあれば、将来的な業務の負担軽減に有効だと思います。

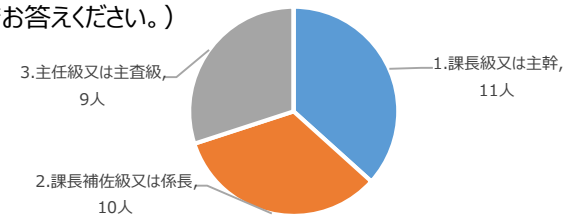
■令和5年度事務事業評価（二次評価）アンケート結果（説明者編）■

回答数：30

1.職名について

■設問1　あなたの職名を教えてください。（10/1時点での職名でお答えください。）

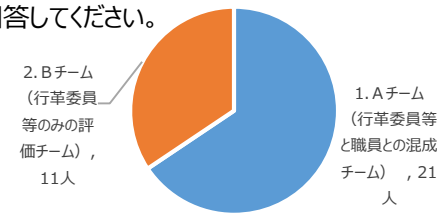
1.課長級又は主幹	11人
2.課長補佐級又は係長	10人
3.主任級又は主査級	9人
4.主事級	0人



2.二次評価への参加について

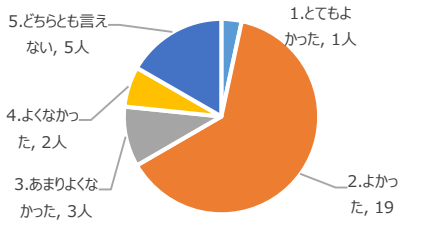
■設問2-1　どのチームの二次評価に参加しましたか？両方の場合は両方に回答してください。

1.Aチーム（行革委員等と職員との混成チーム）	21人
2.Bチーム（行革委員等のみの評価チーム） ※9/25,28評価のみ	11人



■設問2-2　二次評価に参加してよかったですか？

1.とてもよかった	1人
2.よかった	19人
3.あまりよくなかった	3人
4.よくなかった	2人
5.どちらとも言えない	5人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

○とてもよかった／よかった
- 周囲からの評価が得れたため
- 事業の現状について、理解していただくことが出来た。
- 職員以外の外部の評価者の視点は重要であると思います。
- 人事異動により新たに担当となった業務が今回対象になったため、事業の経過や課題点など改めて勉強することができたため
- 第三者からの指摘は考えるきっかけとなったため
- 課題の共有ができた
- 担当課では気づけない視点からの意見が得られたことは有効。
- 短い時間ではあったが、しっかりと確認され事業評価をしていただいたため。
- 改めてその事業の課題点が見えた。
- 改めて様々な角度から意見をいただいたこと。
- 行革委員の視点からの事業に対する率直な意見を聞くことができた。
- 評価者に考えを伝えることができた。
- 外部の方の意見が聞けて良かった
- 第３者の意見、考えを知ることができ、今後の事業計画の作成の一助となると思ったため。
- 事業の位置付けに関して考える機会となった。
- 評価される点と見直す点などが明確に指摘され、改めて事業に対して再確認ができた。

○あまりよくなかった／よくなかった
- 町としての方針が定まっていない事業は今後の展望の説明ができない
- 行政の責任として必要である事業に対して二次評価を行う意義があったのか疑問に感じました。

○どちらとも言えない

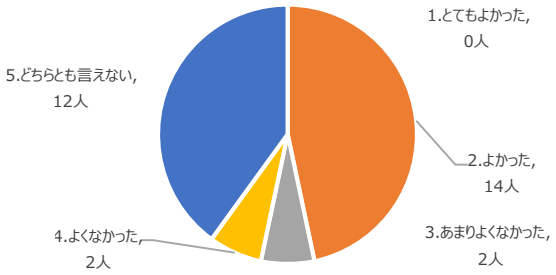
・行革の●●委員は、民主党時代の事業仕分けではありませんが、近年の町議会審議の影響を受けているのかどうか分かりませんが、事業廃止、予算縮減の意図が強すぎるように感じました。不必要な事務事業は廃止、予算縮減に繋がればそれはそれでいいと思いますが、あの場での言動では、説明職員も回答に困ってしまうし、評価対象の事務事業が適正に評価されないケースもあると感じました。●●委員には本来の事務事業評価の主旨を今一度、理解いただければと思います。

・当課の考えを説明させていただき一定理解していただけたことはよかったが、評価内容に新しい気付きはなかったので「どちらとも言えない」とした。

3.二次評価の内容について

■設問3-1　評価シートの構成は分かりやすかったですか？

1.とてもよかった	0人
2.よかった	14人
3.あまりよくなかった	2人
4.よくなかった	2人
5.どちらとも言えない	12人



※上記の回答を選択した理由を教えてください。

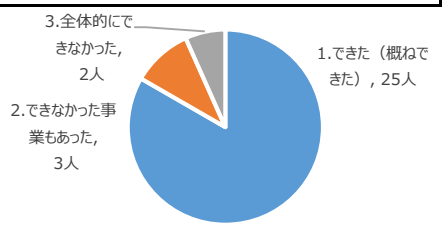
○よかった
- 今後、他の場面での事業内容説明に活用できる。
- 自分自身というよりは評価者に一定分かってもらえたと思う。
- この点は、可もなく不可もなく、どちらでもよかった。

○あまりよくなかった／よくなかった
- わかりにくい。作成に時間がかかる。
- 一次評価の項目の必要性・効率性・有効性の項目の割り当てについては、事務事業によっては当てはめにくい部分もあると思います。様々な事務事業を一つの評価シートに当てはめるのは難しいと思えます。
- シート自体は通常時なら有用な構成ではあるが、コロナの影響下にあったものが見えない年度構成は分かりづらい
- 評価者が頭から事業をしていることを批判されているように（理解しようとするように思えない）思える。

○どちらとも言えない
- 形式的にこなしている感はあり、シート構成について考えていなかったため。
- 毎年様式が変わっているためよくわからないままの部分もあった
- 簡素化すると分かりづらくなるし、細かくすると記入が煩雑になるため、どちらとも言えない。
- 指標になっていない事業があるから。
- もうすこしコンパクトになりませんか？評価に必要な項目ばかりかとは思いますが・・・逆に、評価者が事務事業評価をするにあたり、どのような構成の資料がいいのかを聞いてみてはどうでしょうか？恐らく、各課作成なので文字数や書きぶりに温度差がありますし、各担当課も簡潔明瞭に作文する必要はありますが。
- 達成目標の設定に無理があった。（無理に数値化したことからピントがずれた感がある。）
- ややこしく時間を要する。

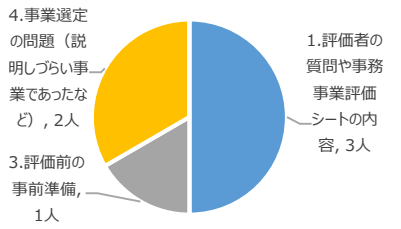
■設問3-2　評価者と十分な意見交換ができましたか？

1.できた（概ねできた）	25人
2.できなかった事業もあった	3人
3.全体的にできなかった	2人



■設問3-3　設問3-2で「2.できなかった事業もあった」「3.全体的にできなかった」と回答された理由を教えてください。（複数回答可）

1.評価者の質問や事務事業評価シートの内容	3人
2.ファシリテーターの進行	0人
3.評価前の事前準備	1人
4.事業選定の問題（説明しづらい事業であったなど）	2人
5.その他	0人



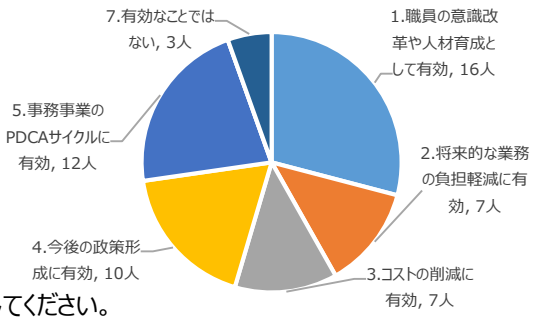
※上記で「5.その他」を選択した場合、その内容を記載してください。

無し

4.二次評価の有効性について

■設問4-1　二次評価は行財政経営マネジメントにとって有効だと思いましたか？（複数回答可）

1.職員の意識改革や人材育成として有効	16人
2.将来的な業務の負担軽減に有効	7人
3.コストの削減に有効	7人
4.今後の政策形成に有効	10人
5.事務事業のPDCAサイクルに有効	12人
6.選択肢以外のことにも有効	0人
7.有効なことではない	3人



※上記で「6.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

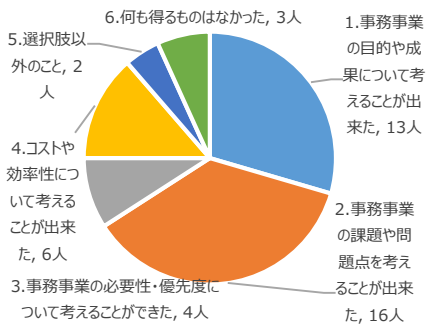
無し

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- 二次評価の結果が活かされれば有効
- 一通り全事業のローリングは終わっているはずなので、本当に二次評価が必要かどうかを精査してほしい
- ルーティン化する（そういうもんだ、と職員が認識する）ことで、業務の一環として定着するという意味では有効。形骸化する可能性も高い（今もしている？）か。
  １．については、一人ひとりの仕事や業務に対する意志によるところが大きい。周りから変わろう！と声かけても各職員が変わろうと思わなければ、やらされ感・やらない感に終わりがち。
  取り組みの有効性は理解できる一方で、当該取り組みをやっての成果が求められる中で、それが見えない部分が多い、あるいは成果を何とするかという部分を共有した上で納得されないと、組織として有効と捉えきれないなあと感じている。
- 他課業務に関する知見を積むことができる
- 二次評価で出た意見を反映させるために予算要求しても財政の都合で叶わないこともあることから、スクラップandビルドの政策形成や意識改革等、職員の人材育成が図られると感じるため。
- 改めて様々な角度から意見をいただいたこと。
- 評価をもとに、事業執行していくことができる。
- 参加することで担当以外の事業内容を知ることができる。また行革委員等の考えが聞ける。
- スクラップの意味ではあまり有効になっていないが、事業内容を再検討することには有効。
- 問題点や課題が浮き彫りになった時、職員の意識改革に繋がると考えるため。
- 事業の捉え方を考える機会になった。

■設問4-2　二次評価に参加して得られたことはありましたか？（複数回答可）

1.事務事業の目的や成果について考えることが出来た	13人
2.事務事業の課題や問題点を考えることが出来た	16人
3.事務事業の必要性・優先度について考えることができた	4人
4.コストや効率性について考えることが出来た	6人
5.選択肢以外のこと	2人
6.何も得るものはなかった	3人



※上記で「5.選択肢以外のこと」を選択した場合、その内容を記載してください。

- 評価者等と意思疎通ができた。

※上記の回答を選択した理由を教えてください。

- 基本、行政事業は行政がやらなければならない事業である一方で、「やるべき」という視点での事業推進もある。やるべきという視点を持ちつつも、行政として実施する意義、目的、成果をしっかり持ち合わせることの必要性、重要性を改めて認識できたと感じる。
- 設問4-1において有効と感じることを複数選択したが、有効な部分とそうでない部分があるように感じる。事務事業評価が有効でないとは言えないが、そこに相当の手間、時間をかけている。一方、事務事業評価が浸透してきて、シート作成など前年度のシートが活用出来たり、経年経過が確認できるようになってきており、「有効」と感じられることが増えてきたようには思う。
- データ分析（＝他市町との比較含む）による事業課題等を洗い出す必要性を考えさせられたため。
- 改めて様々な角度から意見をいただいたこと。
- 毎年当たり前に実施してきたことが、見方によっては違う方法があるんだと気付かされることがあったため。
- 全体の一部として検討する機会になった。

5.次年度以降の改善点・ご意見

■設問5-1　二次評価について、次年度に改善すべき点等があれば教えてください。

- 評価内容に対しての予算査定結果を広く示すべき。
- 法定受託事務（児童手当、児童扶養手当の支給）については事務事業の二次評価の対象としなくてもよいのでは。他にも二次評価の対象とするのが適当でない事務事業がある。
- 1事業当たりの評価時間の拡大
- 前回受けた評価時の前任の担当者も同席すべき
- 設問2、3のとおり
- 年度当初の評価シートの作成依頼があればよい（8月末期限くらいで）。実施時期を、10月以降にしてほしい。
- YouTube等による公開は話しづらい。

■設問5-2　二次評価に関するご意見・感想がありましたらご記入ください。

- 町独自、政策的、特徴的な事業については事務事業二次評価は有効。
- 前年度は、評価者の負担が大きかった（メモをとり、まとめる）と聞いたが、今年度は企画財政課で全てしてもらうことができたので、通常業務にほぼ支障がなく有難かった。
- そもそも事務事業の評価効果があるのか不明なので、事務事業評価を実施する必要があるのか疑問
- 行革委員等外部評価者とざっくばらんな意見交換の場を設けてほしい。
- 指標の設定が難しい。